

11月1日は「みやぎ教育の日」
11月は「みやぎ教育月間」です

令和7年度 みやぎ教育の日推進大会

育てよう 次代を担い 未来をつくる 夢と志を

ポスターについて
今回、「学校は楽しいところ！」をテーマにポスター制作に当たりました。全校生徒（92名）から希望を募って集まった有志13名の生徒と力を合わせて作成しました。生徒たちは、絵の具や鉛筆、色鉛筆など様々なツールを使いながら、個性豊かな表現方法で学校の様子を表しました。ポスター全体から、「学校って楽しいな！」というような雰囲気を感じられれば幸いです。



プログラム

- 開会のあいさつ
 - 宮城県教育委員会 教育長 佐藤 靖彦
 - みやぎ教育の日推進協議会 会長 高橋 幹三
- 少年の主張発表
 - 第46回 少年の主張全国大会第一位 内閣総理大臣賞 栗原市立栗原南中学校3年生時
 - 題「一隅を照らす」
古川学園高等学校1年生
ケイバー ジーバさん（アフガニスタン出身）
- パネルディスカッション
 - テーマ「夢や希望をもって、たくましく生きる子どもたちを育てる」
 - パネラー
宮城県PTA連合会 浅野 直美氏
仙台市小学校長会 蓮沼 秀行氏
宮城県国公立幼稚園・こども園協議会 水野 裕也氏
コーディネーター
宮城県退職校長会 菅原 正功氏
- 閉会のあいさつ
 - みやぎ教育の日推進協議会 副会長 佐々木 伸明

会場 ホテル白萩 「錦の間」2階
【022-265-3411】
仙台市青葉区錦町2丁目 2-19

期日 令和7年11月1日(土)

時間 10:00～12:20 **開会 10時**
受付 9:20～

参加方法 対面 参加無料

定員 100名 事前申込は必要なし

主催 宮城県教育委員会 みやぎ教育の日推進協議会
ポスター制作 南三陸町立歌津中学校 熊谷岳哉校長・有志生徒

発表者・パネラーの紹介

少年の主張発表者

古川学園高等学校1年 ケイバー ジーバ さん

栗原市立栗原南中学校3年の時に、第46回少年の主張全国大会に宮城県代表で出場し、内閣総理大臣賞に輝きました。

<テーマ「一隅を照らす」の内容の主旨>

6年前に日本に来て辛いこともあったが、助けてくれたのは周囲の人たちだった。アフガニスタン等で支援活動を行ってきた医師、中村哲さんに感銘を受け自分も将来医師になり、困っている人々を救い、日本とアフガニスタンを結ぶ架け橋になりたいと思っている。

パネルディスカッション パネラー

宮城県PTA連合会 顧問 浅野 直美 氏

(東松島市立矢本西小学校 元PTA会長)

PTAは、保護者と教員が互いに理解し尊重しながら学校を支える“応援団”です。学校が地域の中心となり、多くの大人が力を合わせることで子どもたちにとって安心できる学びの場がより豊かなものになると考えております。子どもたちが学校で過ごす今の時間は、二度と取り戻せない貴重な時間です。その一日一日が、主体性や自己肯定感、自己有用感、そして非認知能力を育む大切な土台となり、やがて未来を生き抜く力につながっていきます。子どもは地域の宝であり社会の希望そのものです。

私たち大人が学校と地域をつなぎ、子どもたちの可能性を最大限に伸ばしていくこと、そして、日々子どもたちと真正面から向き合い、成長を支えてくださる先生方と手を取り共に歩みながら魅力ある学校づくりの応援団と胸を張って言える！PTA組織が私の理想です。

仙台市小学校長会 副会長 蓮沼 秀行 氏

(仙台市立木町通小学校 校長)

仙台市立学校では、20年あまり、仙台版キャリア教育である「仙台自分づくり教育」に取り組んできました。その結果、子どもたちが社会や、生きることに目を向け、夢や目標を持つことなどにより学びへ向かう意識の変化や自己肯定感の高まりが見られるようになりました。

その一方、心の強さやレジリエンスといった力に課題を持つ子どもたちも一定数存在することにどのように向き合っていくか。「夢や希望をもって、たくましく生きる子どもたちを育てる」ためには、これまでの「仙台自分づくり教育」の良さを生かしながら、家庭や地域の方々と共に、目の前の子どもたちの姿から捉え直すことが大切だと考えています。

宮城県国公立幼稚園・こども園協議会 会長 水野 裕也 氏

(宮城教育大学附属幼稚園 園長)

幼児教育における「遊び」とは…？「遊び」を通して、どんな力が育まれるの？

10年後、20年後、30年後…どのような未来になっているのでしょうか。子どもたちが将来、変化が大きく予測のつかない社会を生き抜き、豊かな人生を切り拓く「持続可能な社会の創り手」となるため、その基盤を培うことが幼児教育には求められています。そして、その中心となるのが「遊び」です。

子どもたちが「自分のとっておきの遊び」を見付け、「自己選択」「自己決定」「自己発揮」を積み重ねながら粘り強く取り組んでいくことで、様々な力が身に付いていきます。将来、夢や希望を実現できるようにするための土台づくりとして、夢中になって「遊び込む」ことができる環境を整えることが幼児期においてはとても重要なことだと考えています。

少年の主張

(進行)

発表者は古川学園高等学校1年、ケイバー ジーバさんです。ジーバさんはアフガニスタンのご出身で、7年前に日本に来られました。ジーバさんは、栗原市立栗原南中学校3年生の時に第46回少年の主張全国大会に宮城県代表で出場し、見事に内閣総理大臣賞の栄に輝きました。発表いただく題は、「一隅を照らす」です。

(少年の主張発表 ケイバー ジーバさん)



「一隅を照らす」という言葉を知っていますか。この言葉は、パキスタンとアフガニスタンで35年もの間、病気の人たちや貧しい人たちのために、医療や開拓などの支援活動を行ってきた医師、中村哲さんが好んで使っていた言葉です。

私が中村哲さんのことを知ったのは、小学4年生の頃。「日本人でそんな人がいるなんて。」「とても勇気のある人だ。」と強い感銘を受けました。「私も中村さんのようになりたい。」「困っている人たちを救いたい。」自分には今、何ができるのか、自分はどう生きていくのかを考えること

が多くなりました。

私はアフガニスタン人です。パキスタンの小学校に入学しましたが、父の仕事の関係で、4年生からは日本で生活しています。6年前に日本に来たときは、家族みんな、日本語が全く話せず、言葉の違いや文化の違いに戸惑いました。

パキスタンの学校では、よく分かっていた勉強が、日本の小学校では全然ついていくことができず「日本語が分からないから仕方がないか・・・。」と思う自分と「悔しい、何とか分かるようになりたい。」と思っている自分がいました。

日本語が少し分かるようになり、日本の文化にも慣れてきた頃に始まった中学校生活。待っていたのは辛い日々・・・。テストのためにどれだけ勉強しても分からないことだらけで、負けず嫌いな私は、仲のいい友達にも負けたくなかったのでストレスが重なり「もう嫌だ、死んでしまいたい・・・。」そう思うことが何度もありました。どうしようもなく泣いたこともあります。そんな絶望的だった私を助けてくれたのは友達や先生方でした。周りの人たちが話を聞いてくれたり、おもしろいことを言って笑わせてくれたりして救ってくれました。両親もいつも応援してくれました。「私も周りの人を助けてあげられる存在になりたい。」そう思うようになりました。アフガニスタンには、病院も水もない場所があります。そこで、中村さんは、「一隅を照らす」「自分が今いる場所で、自分にできることを一生懸命やる」といった精神で、医師として、人として、多くの苦しむ人々を助けてきたのです。私の将来の夢は、医師です。

現在のアフガニスタンでは、女性が学校に通えるのは小学校までで、女性が教育を受け就職する機会が奪われています。私の親戚も、女性は働いていません。私の母は「自分は勉強できなかったから、ジーバにはさせたい。」といつも励ましてくれます。アフガニスタンに住む友達は、「平和な国で学校に行けて、勉強できていいね。」と言って毎日泣いています。

日本に来て辛かったこともありましたが、今は、日本で勉強ができてることが本当に幸せです。日本の国籍を取得し、大学に入って自分の夢を実現させたいと思います。家族と話すパシュトー語、ウルドゥー語、ヒンディー語、アラビア語、英語、日本語、私が話せる言語です。それを自分の特技として生かしていきたいです。医師になって母国のアフガニスタンで病気の人たちや貧しい人々を助けてあげたい。私が働くことがアフガニスタンの女性たちの希望につながる、そう信じています。

人間は一人では生きていません。人から支えてもらい、人を支えて生きています。私を支えてくれた友達や先生、そして両親に恩返しをするために、「一隅を照らす」。(この後、パシュトー語での発表)まずは、今の自分にできることをやり続け、やり遂げられる人になりたいです。いつか日本とアフガニスタンを結ぶ架け橋になるために。

(進行)

ありがとうございました。改めまして、ジーバさんに大きな拍手をお願いいたします。

パネルディスカッション

(事務局長 小野 聡子)

この後、パネルディスカッションの中でパネラーの皆様から自己紹介の時間がございますので、ここでは所属団体名と役職等について紹介させていただきます。

お一人目は、宮城県PTA連合会顧問、浅野 直美 様です。浅野様は、東松島市立矢本西小学校の元PTA会長で、宮城県PTA連合会の前会長を務めておられました。現在は、宮城県PTA連合会の顧問を務めておられます。

お二人目は、仙台市小学校長会副会長、蓮沼 秀行 様です。蓮沼様は現在、仙台市立木町通小学校の校長を務めておられます。

三人目は、宮城県国公立幼稚園・こども園協議会会長 水野 裕也 様です。水野様は現在、宮城教育大学附属幼稚園の園長を務めておられます。

最後にコーディネーターです。コーディネーターは、宮城県退職校長会、監事 菅原 正功 様です。ここからは、コーディネーターの菅原様よりよろしくお願いいたします。



パネラー等自己紹介

(菅原 正功コーディネーター)

*以降(菅原C)



ご紹介いただきました菅原です。ジーバさんの夢に向かう素晴らしい発表を聞いて、パネルディスカッションにも力をいただいたように思います。

さっそく、パネラーの皆さんの自己紹介から始めます。はじめはPTA活動の豊富な経験をお持ちの浅野様お願いいたします。

(浅野 直美パネラー) *以降(浅野P)

よろしくをお願いいたします。ご紹介に預かりました、宮城県PTA連合会顧問の浅野直美と申します。今日は貴重な機会を頂戴し、ありがとうございます。また、先生方を前に何を私がお話しできるのだろうか大変恐縮しています。はじめに自己紹介をさせていただきます。

東松島市で生まれ育ちました。PTA関係に携わったことですが、PTA東北大会の会場に集まる機会がありました。画面のような楽しいPTA活動を展開しています。はじめは長女の幼稚園で保護者会の会長を務めました。小学校の父母

教師会会長を、平成27年から7年間務め、その後、宮城県PTA連合会の会長を一昨年、昨年と2年間務め現在、顧問を務めています。また、PTA以外では保護司、現在は東松島市議会議員をしており、民生教育常任委員会の委員長を務めています。好きな言葉は、「和をもって貴しとなす」です。やはり話し合い、みんなが平和に過ごしたいということが大事だと思っています。

毎朝の活動として、「見守り活動」と「あいさつ運動」を実施しています。私が初めてPTA会長になった際に、矢本西小学校の校長先生がいつも一人で校門に立たれていました。寒い日も雨の日も風の日も立たれていました。一緒に「あいさつ運動」をさせていただき、その後の校長先生とも一緒に「あいさつ運動」と見守りを兼ねて立たせていただきました。やはり毎朝子供たちには、まず家の玄関を出て学校に着くまで、表情や状況が非常に様々なので声かけをして、いくらかでも気持ちよく笑顔で校門をくぐって教室に入ってほしいと思います。



その思いから毎朝この「あいさつ運動」を続けています。それが私たちの学校外でできる先生方へのお手伝いだと思っています。以上、簡単ですが自己紹介でございます。

やはりPTA会長として、日Pや県Pの方とお会いしたり全国や県内を歩いたりしていますと、PTAの在り方や今後のPTAについて様々な対応があると感じました。そのことを保護者の皆様を中心にお伝えしながら、その時にしかできないPTA活動をしています。先ほど、ジーバさんもおっしゃっていましたが、今の自分にしかできない活動を一生懸命やっていきたいと思い、今後もPTAの正しいやり方とか、保護者がすべきこと、学校や先生方にとって保護者が何をできるのかということを伝えていきたいと思っています。今日はどうぞよろしく願いいたします。

(菅原C)

校長先生の毎朝の挨拶が広まっているようです。浅野さんから保護者の皆様にも広がったというお話でした。一日一日、自分にできることは大事にというような観点でお話が展開されると思います。

続きまして、教育行政にも関わられた蓮沼様お願いします。

(蓮沼 秀行パネラー) *以降(蓮沼P)

皆さんこんにちは。木町通小学校の校長をしております、蓮沼秀行と申します。今日は仙台市小学校長会の副会長として、この席に座らせていただいています。自己紹介をさせていただきます。もともと

は仙台市の教員ではなく、私の教員の出身は色麻町で始まり、続いて隣の葉來山のある小野田町での勤務を経て、その後、仙台市に赴任しました。県と仙台市との両方を経験しながら随分、PTAの皆さんや地域の方々にお世話になりました。

その後、社会教育主事として、若林区中央市民センターで3年間、市教委の生涯学習課で4年間勤務しました。自分の活動の経験も生かしながら、もっと広い意味での社会教育としてPTA活動での取り組みや地域との関わりの中で、子供たちが育つということを学ばせていただきました。

その後、教頭として被災地で勤務しました。やはり地域とのつながりがとても大事だという思いを受けながら、子供たちを育ていこうという親の思い、地域の思いを強く感じました。教頭を務めた後、仙台市教育委員会の学びの連携推進室での勤務となり、今日、お話をする『仙台自分づくり教育』を所管しました。学びの連携推進室では、同時に学力向上の施策なども担当しました。



初めて校長として赴任した小学校の地域も素晴らしい地域で、いまだにお付き合いさせていただいています。これまでの私の教員の経験の中でいろいろな方の話を聞きながら、地域の思いや親の思いは、とても大事なことだと常に感じています。そして、学びの連携推進室の室長、教育局人事部の参事、教育局次長を経て、今年、学校現場に戻ってきました。

子供たちについて思うことは、チラシに書いていますが、そういう見方だけでいいのかなと最近思っています。周りの環境とか、大人がつくっているものの中で子供たちがアップアップしているのではないかとも思っています。そうなったときに、子供たちが弱いという話ではなく、我々がこれまでのいろいろな捉え方を見直すターニングポイントに来ているのではないかと考えながら、今日は、そういうお話ができればと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

(菅原 C)

蓮沼先生は社会教育の経験もおありですので、学校と地域との関わり、あるいは地域や親の思いを含めた、子供を取り巻く環境の変化などのお話がいただけるかと思っています。

続いて、幼児教育・小学校教育の両方を経験されている水野様をお願いします。

(水野 裕也パネラー) *以降(水野 P)

皆さまよろしくお願いたします。宮城県国公立幼稚園・こども園協議会に所属しています水野裕也と申します。本日は、幼児教育について話す機会をいただ

き大変ありがとうございます。この所属名は聞きなれない名前と思います。一般的に国公幼と呼んでおり全国組織と各都道府県にも同じような組織があります。宮城県内の国公立の幼稚園・こども園は、だいぶ減ってきており 50 園を切っています。毎年数園ずつ減っている状況で、来年度は 40 園程度になるといわれています。それで、宮城教育大学附属幼稚園の園長に赴任すると、自動的に協議会の会長に就くことになっています。幼児教育に詳しく精通しているような肩書ですが、実は全くそんなことはありません。自己紹介でこんな言い訳をさせていただきたいと思っています。

私は大学生の時に、小学校と幼稚園の教員免許を取りまして、どちらの採用試験を受けようか悩みながらも小学校教員の道へ進むことにしました。初任地は女川町で、当時は町内に分校が 3 つあり、そのうちの 1 つの分校が振り出しでした。全校児童が 8 名、全員が木村さん。フルーツバスケットでは「木村さん」と言う全員が動くという学校でした。本当に楽しく毎日過ごさせていただきました。この 3 年間があったからこそ、その後も教員を続けられたかなと思っています。



地元は石巻市でしたが、その後は石巻市と女川町で勤務をしました。令和4年から2年間、塩竈市の浦戸小学校で勤務しました。船で塩竈栈橋から30分ほど揺られ、島の栈橋で降りてから15分ほど歩いて学校へ行く生活を送っていました。このような経緯で、幼児教育に関わることはほとんどなかったのですが、昨年からは幼稚園勤務になり、これまで幼児教育に目を向けていなかったことを大いに反省しています。本日はその反省も含めまして、お話をさせていただきます。

本日のテーマの中に「夢・希望・たくましく」という言葉が入っていますが、幼稚園では直接的に夢に向かって頑張ろうと保育をしているわけではありません。幼稚園時代は全ての土台になる大事な時期であると考えています。では、どのように保育を進めていくと、夢や希望をもつことにつながっていくのか、たくましさの土台が培われていくのかということについて、本園、附属幼稚園の実践を紹介しながらお伝えできればと思います。本日はどうぞよろしくお願いたします。

(菅原 C)

幼児教育に関わられて、新しい発想や考え方に気付かれたというお話でした。少子化の進行が現実には自分たちの場所に押し寄せていることを感じますね。

パネラーの意見発表

(菅原 C)

それでは、ここから具体的な発表を、幼稚園⇒小学校⇒PTAの順に願います。

はじめに、今回は、水野様からお願いいたします。

(水野 P)

続けて申し上げます。今、映っているスライドは、文部科学省が作成した動画、『幼児教育は何のため』からピックアップしています。文科省で幼児教育について、「これだけは大事だよ」「遊びは学びだよ」という内容の動画で、最新のものです。しかも、2分間と短いのでいろいろところで活用でき、私もすでに何回か活用しています。

内容を要約すると、これからの子供たちが生きていく社会は、今よりもっと変化が大きく、予測がつかない社会です。これからの社会に必要なのは、短時間でいかに多くの正解を出せるかではありません。粘り強く考え行動する力、みんなと納得できる答えを見出す力、これらをつけるために学校では探究する取り組みが増えています。大学入試も、ペーパーテストを行う一般選抜から、より多面的に見る総合型選抜を導入する大学が増えています。その力を培うのに幼児教育が将来に与える影響が大きいことが明らかになっているという OECD の報告もあります。特に遊びですが、遊びによって子



供たちが自分らしく未来の社会を切り拓いていく基盤となる力を培っていくので、その鍵になる幼児教育の内容がこの動画には入っています。ぜひ小学校の先生にこれを参考にさせていただき、小学校の教育にも生かしていただければと思っています。

次のスライドです。ここからは、本園での実際の遊び、実践について紹介します。これは昨年度の実践で、年中児の『色水遊び』です。最初は年中の頃にやっていた草花をすりつぶして色を出すといった遊びの継続的なものをしていました。そして、ここからどんどん発展していき、例えば「作った色を混ぜてみたい。」「混ぜた色を並べてお店屋さんにしてみたい。」「お店さんの飾りを、色水を使って素敵にしていきたい。」などと発展していきました。

次のスライドです。これは7月になり、たまたま、ある子供が虹の模様が描かれた服を着ており「それ作りたいね。」となったようで、どのように作るかということを考えながら、ちょっとだけ立体っぽいものを作って、このような仕上がりになったものです。



ここでもちょっと工夫だなと思うのは、蓋を付けたままだと白が全面的に見えてしまうということで、蓋を外す工夫をし、虹の色を見せることを子供たちは頑張りました。ただ、蓋を開けるので、こぼすようなアクシデントはたくさんありましたが、それでもこういうものを作って満足しています。この後、さらに「立体的なものを作りたい。」となって、ボンドで板に貼り付け、星のマークの壁掛けも作りました。

次のスライドです。今度は「色の調合をしたい。」ということになり、先生がスポイトやスプーンとかを用意して、子供たちはいろいろ作り始めました。赤5杯、黄色1杯の5対1で混ぜた時に、ああいう色が出来上がって、同じような色が出来上がってくると、だんだん名前にも工夫が見られるようになってきました。赤とか薄い色とかではなく、「あさ」という名前を付けました。これをずっと繰り返していくうちに、前に使った名前を使わないとなると一生懸命名前を考えなければならなくなってきました。年中児ながらすごく頑張らして、皆様の資料に子供たちが付けた名前の紹介があります。「黄色10、緑1の10対1」、普通でいうと黄緑とか、薄い黄緑とかになるのですが子供たちは、これを「こどもみどり」と名付けました。薄いということで「こども」と表現しました。次の「赤4、青7の4対7」ですが、青っぽく感じるころですが、端に赤が結構残っていて赤の印象が強かったのか、これは濃い赤なので「おとなれっど」と名付けていました。次の「赤3、青3」については、「さつま

いも」とか、まあまあいい答えも出るのでありますが、年中児はそれを超えて「はなびぞら」という名前を付けています。最後ですが「赤11、緑10」なかなか想像するのが難しい色で、これはグレーのような茶色のような、あまりきれいな色ではなかったのですが、これについては「ごりらのけ」という名前を付けました。このように、繰り返しやっていくことで発見がありました。私たちの園では、継続するということがすごく大事にしていて、子供たちがたくさん自己発揮をできるということをとても大事にしています。

次のスライドです。最終的に106色です。100を超える色を作りました。これを子供たちみんなに紹介しているところです。ここで大事なことが、『自己選択』『自己決定』『自己発揮』です。私たちの園ではすごく大切にしています。自己選択をして、自分で決めて自分で表現することになります。

最後のスライドです。このように遊びを発展させていく。「今日この遊びをします。」「明日この遊びをします。」というよりも、1つのテーマで長い期間を遊んでいくことによって、どんどん発展が見られます。そして継続することでより多くつながりが得られると考えています。また、継続することで、より主体性、特に幼稚園の場合は、「やってみたい。」という言葉が大事になりますが、やってみたい気持ちとか想像力を伸ばせるのではないかとことを大事にしています。このようなところが、本日のテーマになっている「夢や希望」といったところにもつながると考えます。また私たちの園で

は、粘り強く取り組む中で、たくましさも少しずつ培っていきけるのではないかと考えています。一番下にある「本園の保育について」は、去年の年長児の担任が要約しているものです。後でお読みいただければと思います。

こういったことを、遊びを通して行いながらゴールに向かって粘り強く取り組むことを積み重ねていくことが、今回のテーマにある「子供の育成」につながっていくと考えています。もちろん、他にねらいや培われる力もあると思いますが、このテーマに向かって継続すること、積み重ねることがすごく大事であると思っています。



(菅原C)

「やってみたい」という気持ちを大事にしなが、遊びをどんどん発展させていく。そして粘り強く工夫をしたり遊び続けたりすることで、自己決定なり自己発揮の場面をつくって夢や希望というものにつながっていく力となる土台が作られている実践だと思っています。

続きまして、蓮沼様お願いいたします。

(蓮沼P)

お配りの資料があると思います。「自分づくり」というところからお話していきます。今日のテーマに関連する取り組みというと仙台市で取り組んでいる『仙台自分づくり教育』になります。仙台市では、児童生徒が自らの学ぶ意欲をもち、人や社会との関わりを大切にしながら、将来の社会的、職業的自立に必要な態度や能力を育むことが必要であると考え、子供たちにたくましい力を育むことを目指し、平成17年度から取り組んできました。仙台版のキャリア教育というのが『仙台自分づくり教育』となります。自己紹介で話しましたが、学びの連携推進室で『仙台自分づくり教育』も所管していたので、その話になります。県教委では『志教育』にあたる取組です。キャリア教育は、ニートや離職率の上昇などもあり、若者の働く意欲を引き上げるためにも導入が進んだという経緯がありますが、キャリア教育の本来は、職業観の醸成だけではなく、自分らしく生きるための人生設計や生き方を支援するものです。そのため仙台市では「社会を支える25歳を目指す」ことをスローガンとし、生き方教育として当初から取り組んできました。具体の取り組みは詳しくは話しませんが、スライドの全体像にあるとおりです。体験的な取り組みとして代表的なのが、職場体験や子ども体験プラザでのスチューデントシティやファイナンスパークなど、小中学校でそれぞれあります。また、体験活動だけではなく、体験活動の前後の取り組みや、たくましく生きる力を育む素地の5つの力を育む授業プラ

ン、特別活動や教科学習など、日々の学習において取り組み、また、そういった活動での子供たちの自己評価とフィードバックを合わせて行い、子供たちのたくましく生きる力の育成を図っています。『仙台自分づくり教育』は、仙台市教育施策の重点になっており、市内の各校で力を入れて取り組んでいるところです。



次のスライドです。「自分づくり教育」の成果を考えると、指標として子供たちの自己肯定感や、将来の夢や目標をもつことでの肯定的回答の割合が設定されています。今年度は、仙台市の小学2年生から中学3年生まで、約67,000名を対象に調査しています。その結果、グラフの赤い線が令和7年度の結果です。仙台市生活学習状況調査の結果を見ていくと、自己肯定感の指標としている設問で「自分にはよいところもあると思う」について、昨年度から上昇傾向で、学年が上がると肯定的回答は低下傾向にはありますが、その低下は穏やかです。いずれにしても中学3年生でも83%と高い数値を示して維持しています。

一方でもう1つのグラフになります。「将来の夢や目標をもっている」ことについては、数年間同様なグラフの形をたどっていますが、学年が上がるほど肯定

的な回答が低下する傾向があります。その低下の具合も、結構急かなところですよ。中学1・2年生の時、94%、93%が、中学3年生になると67.7%です。令和7年で大切なところですよ。毎年、小学6年生と中学3年生を対象に実施している全国学力学習状況調査の結果、同様の質問について見てみるとどうかということになります。全国と比べると、仙台市の子供の特徴として、小学生の時は全国平均を下回っていますが、中学3年生では全国平均を上回るという傾向がずっと続いています。自己肯定感の指標としている「自分にはよいところがある」という設問です。今年度に限っては、小学校でも全国平均を上回りました。自己肯定感について、これを同じ子供で見比べてみます。小学6年生の時と中学3年生になった時ではどうか比較してみると、他の自治体の方から指摘されたことですが、仙台市は他の都市と比べて低下率が低いということです。ちょっと特徴的なところが出てきました。仙台市教育委員会では、こういったところを捉え、『仙台自分づくり教育』を続けてきて何らかの効果があるのだろうと受け止めています。

今日のテーマに関連して「将来の夢や目標をもっている」ということに関しては、少し低くなっていますが、将来の夢や目標をもつことが本当にいいことなのだろうか、必要なことなのだろうか、ということも少し考えてみたいと思います。

次のスライドです。ドリハラ、ドリームハラスメントという言葉を知ったことがある方はいらっしゃるでしょうか。これは多摩大学の職員、高部大問さんが

『ドリームハラスメント、夢を若者が追い詰める、「夢」で若者を追い詰める大人たち』、イースト書籍から新書で発行されているのですが、ここから世に出てきた言葉だそうです。高部氏は自らの経験を語っているのですが、中学生や大学生と接する中で、日本社会は過剰に夢をもつよう強要し、もはやハラスメントレベルだと考えるようになったということです。高部氏の講演を聞いた、およそ1万人の若者のうち2,000人ほどが、アンケートで「夢」について、夢にまつわる悩みを書いているそうです。「夢をもたなければダメなのかと思っていた。」「夢を無理に作って頑張ろうとしていた。」そういう声や、「夢をもつことを強制されている。」と不満を訴える声もあったとのこと。これは看過できないと感じるようになり本にまとめたということです。実際、中学3年生の子供が、親や先生は「夢ややりたいことはないの?」とよく聞いてくるけど「夢がないとダメ?生活に困らない程度にお金が稼げる仕事に就けばいいと思うのはダメなのか?」と書いたそうです。高校1年生でも「将来どういう勉強をしたいのか?」「どういう大学に入りたいのか?」と聞かれることが多い。将来どういう仕事をしたいのかまだ分からな



いし、私自身も迷いや漠然とした目標を打ち明けることに抵抗がありました。「だから分からない。まだ決まっていない。」と答えているとのこと。学校教育の中では、自分の夢を発表させたり、卒業文集で夢について書いたりしますが、このように夢について語ったり書いたりする場面が結構多いかなと思います。夢のある子供はいいのですが、その時に夢のようなものをもっていない子供は、どんな気持ちになっているのかなと考えてしまいます。夢をもつこと自体、否定することではないし、よいことだと思いますが、子供に対して夢をもつことを無意識に求めすぎているのだろうかということ。また、子供の目の前のことを頑張らせたいという大人の思いのために、夢をもつことを求めているのではないか。そのことは子供にとってプレッシャーとなり、プラスに働くとは限らないということを心に留めておいたほうがいいのかと思っています。

現在、『仙台自分づくり教育』で取り組んでいる「夢教師」というものがあります。小学5・6年生向けの職業講話ですが、講師の方はいろいろな職業の方がいて、お話に来てくれます。その中で「今、夢をもっている人は夢に向かって努力すればいい。今、夢をもっていないなくても焦ることはない。いろいろなことに挑戦する。今できることを頑張ればいい。」という話に、子供は、「夢はそのうち見つければいい。」とか、「夢がなくてもいい。」とか、「そういった話を聞いて安心した。」という感想をあげています。小学生の子供たちがそういう状況にあることを、実

際に見たりしていました。思い描いて夢は必ず叶うわけでもないし、叶う確率は高いわけでもないのです。夢が叶わなくても生活を豊かに楽しく生きている人はいっぱいいますし、必ず夢をもたないとダメなのかということではないと思うのです。ただ、夢や目標の表現を変えて目指すものをもつ場合、その意味はやはり大きいと思います。

内発的な動機につながるることとか、自己決定をして自ら子供の中で出てくるエネルギー、また努力するモチベーションはとても大切だと思います。子供たちが興味をもって好きなことや目指すものを見つけ気付くこと、また、自己実現のために何をするのか、自分で決めて行動すること、自分なりの努力や工夫を積み重ねること、目指すものに到達できるということはとても素晴らしいことです。いかに子供に出会いの場を作っていくか、機会を与えていくかということが非常に重要になってくるかと思っています。

最後のスライドです。「夢や希望をもって、たくましく生きる子供を育てる」というテーマに話を戻していきたいと思います。子供たちの認識について、仙台市生活学習調査の結果、自己肯定感に関連



する項目として「自分には可能性があると思っている」、こちらの肯定的な回答ですが、学年が上がると割合が下がりますが減少はなだらかです。ほぼ横ばいのような形です。中学3年生で75%ですから、4人に3人が何らかの可能性をもち肯定的に捉えているようです。一方で、「自分の将来のことを考えると楽しい気持ちになる」についても、肯定的な回答は、年齢が上がると低下している傾向がありますが、減少の傾きは急になり中学3年生で63%です。将来に希望をもつという観点からは、これを一番高めていきたいところです。子供たちには明るい未来があるという希望をもって生活してほしいと思います。また、ここにはありませんが気になる項目として、令和6年度から新しく小学5年生、中学3年生を対象に「今の自分に満足しているか」という問いを設定しています。これに対する肯定的な回答は、割合が高いのは小学5年生の65%で、中学3年生は半分に満たない47%になっています。これをどう解釈するのか。自己肯定感が高まっているということと矛盾するのではないかと見るのか、それとも、もっともっと今の自分に満足していないという向上心の裏返しと見るのか、他のところをもう少し見ていかないと分からないと思います。

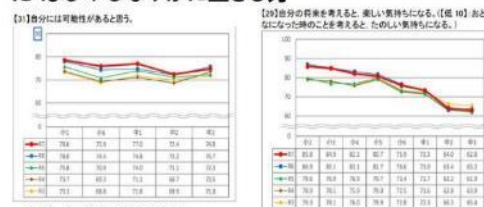
将来、希望をもつことについては、ニュースや社会情勢の影響が随分あると捉えていて、戦争や感染症の影響などもあるのかなと思います。世の中にネガティブな情報が多くなれば、不安やプレッシャーとかも大きくなっていくと思います。前向きに物事を捉える意識が捉えにくく

なっていくということもあります。今、予想困難な時代と言われていますが、そういうところだと思います。未来への不安要素は、ネガティブな情報が多くあるから高まっていくのかなと思います。そういう世相の中で、「夢や希望をもって、たくましく生きる子供を育てる」ために大切にしたいものは何かという答えを探しているところです。ぜひ今日、考えてみたいと思います。

仙台市の教育方針、理念を定めた「仙台市教育構想2021」の中に「強い意志や知恵で乗り越えるたくましさ」とあります。大事なことです。今の時代は予想困難だと話しましたが、そういう時代の中で、考えや新しい見方、捉え方で柔軟に対応していく「しなやかさ」が、これからはさらに大事なだろうと考えています。

子供たちを育てていくために子供の心を耕すことが大事だと考えます。子供の捉え方のイメージは様々あると思いますが、私のイメージとしては畑とか、土、土壌という捉え方です。石ころや木の根などを取り除いて土づくりを行い、しっかりとした畑にしていく。しっかりとした土づくりができた畑に種をまいて、手

たくましく しなやかに生きる力



仙台市教育構想2021

予測が難しい時代だからこそ
強い意志や知恵で乗り越える
たくましさ
夢を持つ自立する人
実現させる
しなやかさ

「しなやかさ」が大切では…

◎こどもたちの心を耕す

をかけていけばよい作物が取れるだろうと思います。土づくりをする。良い作物が育つ。そのための畑づくりをするのが大人の役割で、そこにまく種については子供が選ぶのだと思います。どういう種をまいて、どういうものを育てていくのか。大人は、子供が選んだ種が育つのを助けていくことが役割になると思います。大人はどんなことができるのだろう。子供の心を耕すためにいろいろなことが考えられます。様々なことも言われています。いわゆる非認知能力の育成などです。子供に物の見方や考え方を身に付けさせていくことです。例えば、子供たちの観点を育てるとか、世の中に目を向けるきっかけを作るとか。あるいは良い習慣を見つけさせることとか、道徳的な実践力を育むことなど。それと併せて問われているのは、私たち大人の姿勢かなと思います。子供たちの周囲の大人が意識することや、できることは何なのだろうか。子供が、夢や希望をもっていくために、大人の在り方を本気で考えていくことが大切だと思います。本気で考えて行動しないとダメだと思っています。そしてそれを行動するだけではなく、子供たちにどう見せていくのか、大人がモデルになっていくことは、とても大事なことだと思います。



今日は様々なことをベラベラと話しましたが非常に緊張しています。先輩方がいらっしゃる、知見もご経験もあり、そこからものを深め、考え捉えているものがたくさんあるかと思っています。教えていただく気持ちでお話しさせていただきました。よろしくお願いいたします。

(菅原C)

『仙台自分づくり教育』を中心に、間違いなく成果とみられるものとして、子供が夢や希望に向かうエネルギーになっていたり、学び方の意識が変わってきたりということもあるようです。そこで見落としていけないのは「もっと子供とちゃんと向き合わなければいけないよ」という示唆に富んだお話でした。

それでは、次に浅野様お願いします。

(浅野P)

ありがとうございます。非常に緊張しています。「こんな保護者もいるね」という感じで聞いていただければと思います。

「PTA活動は、やはり魅力ある学校づくりの応援だよ」と、いつもみんなに話しています。スライドにあります、昨年「宮城県PTA研究大会松島大会」がありました。毎年、県内各地で年に一度開催されています。その時に、みんなで来賓の方を巻き込み、子供たちのためにということで「学校を応援するぞ。」と「エイオー！」をしました。千葉副教育長様にも一緒にこぶしを挙げていただきましてありがとうございました。やはり、先ほど蓮沼先生が予想困難な時代という話をしていましたが、私はコロナ禍の際

に非常にそう思いました。大変焦りを感じたコロナ禍でございました。というのも、学校生活の一日一日が子供たちにとって取り戻すこともできない貴重な時間であると思っていますので。そのような中で、コロナ禍の全国一斉休校、2月、3月の時期でしたので卒業式など、子供たちにとって非常に貴重な時間を失ってしまったということ。またその後も学校行事の自粛や縮小、また宣言などもあり、その学年でしか得られない思い出が非常に乏しくなってしまうのではないかと懸念しました。

そのような中で地域の方からお声掛けをいただき、学校で「お化け屋敷」を夏休みに開催しました。これも「今やらなくてはダメですか。」など非常に批判的なご意見もいただきましたが、夏休みに、家庭でもどこにも出かけることもできない子供たちの思い出を少しでも何かできれば、思い出を残すことができればと思い、PTA役員としてではなく、完全に有志として任意で集まった活動の写真です。

次の写真になります。このときは地域の方からのご指導を中心に先生方にも非常にご協力をいただきました。当時の校長先生が体育館で『怪談話』をお話しされ、クライマックスで電気を消すとか、女性の先生にお化けになっていただきました。子供たちは先生だと分かりつつも、ちょっと不思議な楽しい体験をしました。

今、私がやっている活動ですが、NPOの方で子供実行委員会というものを立ち上げています。また、蓮沼校長先生からもお話があったとおり、やはり主体性、

自己肯定感、自己有用感を高めて子供たちを学校へ送り出したいと考えています。また、自分の地域で郷土愛を育み、スポンジのようにどんどん吸収する素直で思いやりのある子供たちに育てほしいという思いで活動しています。地域の職業を体験するために、地域の会社の事業所の皆さんにご協力いただいた職業体験とか、子供たちがレモネードを販売して、200円、300円の代金を頂戴し、小児がんの子供たちに寄付をするという寄付活動を実施しました。また、郷土愛を培うために日本の和装文化を経験することや、子供実行委員会主体で、子供作品展、絵画と書写の作品展の表彰式を行いました。子供たちが自分で審査をして賞状を渡すという活動をしています。この時は、担任の先生が協力してくださり、司会は担任の先生にお願いしました。子供たちが自分たちでやりたいこと、「こういうことをやってみたい」「こういうことを考えている」という気持ちを、私たち大人がもらって活動しているものです。やはり地域の皆さんも一緒にいて、地域を巻き込んでいくということも大切に考えています。

「こども実行委員会」郷土愛を育み、素直で思いやりある子どもたちに



今、学校の再編も進んでいますが、学校がなくなった地域というのは非常に光

がなくなってしまったと思うくらい寂しいものだなと思っています。「学校は地域の宝だよ。」と地域の皆さんにお願いしています。今、先生しかできない仕事は先生にお願いをして、先生でなくてもできることを、例えば校庭の周りの草刈りとか、ゴミ拾いとか、私たち地域の人間、PTA活動は先生でなくてもできることをお手伝いして、学校を核とした地域とのつながりというものを強く考えています。また、地域食堂ですね。地域食堂はみんなで食事をしてというところで、先生方にもご協力をいただきながら活動しています。

そしてPTA活動ですが、今、PTA不要論などもあります。多種多様な考え方、本当に保護者の皆様も、また、学校によっては「PTAっていらぬよね。」「何のための活動ですか。」と非常に厳しいご意見をいただく時代となりました。そうした中には、やはり皆さんの個人主義とか、私は私、あなたはあなたという、昔から日本人が培ってきた支え合いとか、思いやりの精神というのが今、若干薄れてきているのかなということを非常に懸念しています。これは先日のPTA会長会などの写真ですが、みんな笑顔ですよ。子供のこと、学校のこと、先生のことを話し出すと皆さん笑顔です。こういう部分をPTAの会員にどんどん見せて、「PTAって楽しいよね。」と言っています。PTA会長会の際に、よく会員に話していることの一部抜粋ですが、『PTAは学校の頼れるパートナーでありたい』と思っています。「保護者と教職員がタッグを組めば、子供たちにとってはもう最

強の組織になるのです。」ということ、会員の皆さんには話しています。

やはり保護者が学校教育を理解するとともに、教職員の皆様のご理解も私たちにいただきたいなと思っているところです。また、先ほども申し上げたとおり、多様なご家庭、地域に対応する新しいPTAの形へと改革する時代へと進んでいるのかなと今は思っています。とはいえ、やはりPTAの原点というものがありません。それを見つめ直しながら「未来のPTAを共に考えていきましょう」ということを話しています。

また、PTA活動に携わると先生方とよくお話しするようになります。私は校長先生方と毎朝一緒にお話をしている、本当に先生方は大変だなということを身に染みて考えています。いかに先生方が教育に情熱を注ぎ、心を砕いてくださっているかということが一番理解しているのも、私たちPTAであると思います。そのような先生方の姿を、多くの会員に伝えていきたいと思ひますし、また「PTA活動って楽しいよね」というところも加えて、クレームへの対応も担って保護者側の気持ちになっていければ先生方の助けになるものと思っています。「PTA活動はすごく楽しいですよ。」というよ



うにしていきたいと思っています。先生方との信頼関係を築いていきたい、ただし、「友達ではないですよ」ということです。先生は先生、やはり教員ですので尊敬の気持ちを大切にしながら接してほしいこともお伝えしています。

最後のページになります。これはコロナ禍で離任式ができなかった先生へのサプライズ。離任式とお別れの会をしました。この時もコロナなので集まらないことと言われていたのですが、退任される先生に分からないように保護者だけのネットワークを使って写真のような人数の方が集まってくれました。この写真以外にももっと人数はいました。こういった形で先生が学校を離れるのに離任式もないのが非常に寂しいなと思い、訴えかけたところ、このくらいの方が集まってくれました。先生方は、子供にとっても、親にとっても大変に大好きな存在です。そういった先生方とともに、学校を喜ばせる活動、嬉しい活動というのがPTA活動であると、今後もお伝えしていきたいと思っています。私からは以上です。

（菅原C）

魅力ある学校づくりの応援団という考えに基づいて、PTAの方々がたくさん学校のことを理解しながら協力していただいている実践でした。最近、やはりPTA不要論というのが浮かび上がってくるような時代ですが、このような実践を聞きますと、たかがPTA されどPTAという感じがいたします。本当に意味のある活動で、学校を支えていただい

ることに、学校現場を経験したものとして大変心強く感じる発表でした。

パネラー同士の意見交換

（菅原C）

それでは、ここから3人のパネラーの皆さんに、それぞれの発表を伺った感想なり、ご意見なり、あるいはここを詳しくという質問なりをいただきながら進めてまいります。どうぞ参会の皆様も同じような立場でお互いにお聞きいただければと思います。それでは、水野様からお願いします。

（水野P）

幼稚園、小学校、中学校は連携が大事と言いつつも、それぞれの多忙さなどがあるいろいろな状況があります。子供と親の場合は、そこが途切れず一本太い串が刺さっている感じだと思います。そして、それを取り巻く周りの地域も変わらないので、幼・小・中がもちろん連携するのも大事ですが、保護者の方にいろいろなご理解やご協力をいただくこと、それが中学校卒業まで続くというのはすごく大事なかなと思っています。



もっと言いますと、幼稚園に入る前の段階の家庭教育の部分、愛着形成などの部分です。そういったところからつながって、PTA活動でよりよく子供たちを育てる。もともとPTAは、子供たちの健全育成ということだと思います。そこにつなげていくのは、やはりこの三者（学校・家庭・地域）になるでしょう。同じように理解をした上で、協力し合えるのはすごく大事だと思います。ただ、お家の方々もそれぞれお忙しいので、協力したいけれどなかなか時間が取れないとか、どちらかという家庭の中で完結させたいとか、いろいろ考えると思うのです。まずは人を集めて活動を理解していただくことも大事です。おのおのが忙しい中でも、ちょっとでも参加してみようかなという気持ちになっていただくことが大事かと思います。これまでいろいろと努力されていると思いますので、そういうところの掘り起こし方を教えていただきたいと思います。私たちは園や学校に戻ってそのことを保護者の方と一緒に深めていくことは可能だと思います。

（浅野P）

ありがとうございます。PTA活動は、やはり県内、地域、またその学年によってかなり温度差があります。でも子供たちのもっている素地は変わらないので、子供を信じて活動して、家庭に帰ってきたら信じてお話を聞いていくことが一番かなと思います。幼稚園、小学校、中学校と同じ保護者ですが、なぜかそのようなことで本当に変わるのですね。環境によっても、その時々のお仕事の関係とか、

そうした部分でも変わるのですが、気持ちの上で若干変わっていくところがあると思います。PTAに関しては、どうしても幼稚園、小学校、中学校と同じ方がスライドで上がっていく中で、一定の方々役員について、中には全く携わったことがないという方もいて、義務教育の9年間で携わらないで出てしまう人もいます。そこがちょっと私も懸念事項かなというところではあります。

意外と皆さん、親子での活動に対してはすごく参加していただきます。役員というと皆さん全然目を合わせてくれなくなりますので、「ちょっとしたお手伝いをお願いしていいですか。」など、そんな感じでどんどん引き込んでいって、PTAの役員の中には、ちょっとフランクなお母さんがいらっしゃいますので、そういった方の力をお借りして、どんどん引き込んでいくことが大事だと思います。全く関わったことはない方がいらっしゃらないようにして、全ての保護者に、とにかく関わってもらい、学校の現状を知ってもらい、「子供と楽しめますよ。」「先生方と楽しく活動ができますよ。」というところをPRしています。



(菅原C)

今のお話ですと、保護者間の意識差というものが現実にはあるわけですが、そういうときにも働き掛けて、親御さんにお手伝いをいただけるような場を設けることで子供がその姿を見ることとなりますね。それが子供の夢や希望にもつながるような「ああいうお父さんになりたい。」とかにもつながっていくのではないかと、いうお話だったと思います。ありがとうございました。

それでは蓮沼様、どちらかの方に、ご意見・ご質問はございませんか。

(蓮沼P)

幼稚園の話、素晴らしい取り組みだと思います。子供の見取りや「大人レッド、花火空、ゴリラの毛」とかですね。子供が遊びをきっかけにいろいろ探究していく。そういうことが小学校で生かされていくのが大事なことだと思います。子供の姿をこんなふう引き出していく。見取りについて幼稚園の先生方が色水の話で、どういうことを意識して関わり、子供のどういう部分を育てたいのかを共有しているのか、実際のお話を伺いたいと思っていました。



(水野P)

ありがとうございます。幼児教育の先生方のお話では、まず、幼児教育は子供の主体性と教師の意図のバランスと言われ、それで遊びを作っていくこととなります。そこにキーワードとして『環境構成』という言葉が入ります。子供たちの声を聞き、次の日の遊びの仕掛けを行い、また子供の声を聞いて次の日の遊びの仕掛けをしていくのは基本線です。それが非常に難しいところです。その見取りの部分ですが、本当にぼんやりと全体を見ているのでは、なかなか見取れないです。私は小学校で授業をしているとき、どちらかというと全体をぼんやり見る派だったので、一人一人を見るというのがちょっと苦手なところでした。なおのこと、幼児教育はそこが大事になってきますし、どういうことを友達と一緒に話しているのか、「先生、先生。」と来なくても、どういったことを子供たちの中で、今やりたい、次やりたいということを考えているのかを見取ること。また、教師の方から寄って聞いて聞くことがすごく大事です。とても難しいところかなと思っています。

『環境構成』について、子供たちのやってみたいことを引き出すためには、やはりワクワク感なども大事になってきます。合言葉的なもので言うと、『新しい発見がある園庭』を目指しています。毎日それができればなおいいのですが、そこまではなかなか難しいところがあります。「これやってみたい。」「これちょっと難しそうだけど、でもチャレンジしてみようかな。」など。例えば、さらっと先

生が道具を置き、この新しい道具を使ってこんなことをしてみたいというのを、子供たちの中から出させていく。内発的というお話でしたが、自ら出させるということが、やはり大事になってくると思います。見取りの部分と、前段階に準備する部分と、見取ってから準備する部分と、そのあたりのつながりが非常に大事になってくるのではないかと思います。

本日、皆様にお伝えしたかったのは、本当に保育はとても難しいと思うことです。私も小学校勤務のとき、例えば補欠で教室に入っていると、どの学年も教科書があるので何とかはなりますが、保育は何もなくポツと入るのがすごく難しいなと思っています。そういった保育の実際というものを、特に小学校の先生にはぜひ見に来ていただくと幼稚園としては非常に嬉しいです。

(菅原 C)

私は孫と一緒に過ごしていますが、孫はゲームを始めると何もいらなくなるようです。なぜかという、そこにはレベルに応じて発展性が用意されているからだと思っています。今、遊びに向かわせるときには、ただ遊ばせるだけでは、たぶんそこにはたどりつけないのだと思うのです。やはり、先生方や親御さんが、遊びを次に発展させるような仕掛けが必要になってくるのだと思うのです。今のお話を聞きながら、そんなことを感じました。

それでは、浅野様からどちらかの方にご質問などございますか。

(浅野 P)

ありがとうございます。蓮沼校長先生にお聞きします。仙台市には『自分づくり教育』があり、宮城県には『志教育』があります。共通点や相違点として、例えば学力も関連するものもあるかと思いますが、挨拶や清掃といった生活上のこともあるかと思います。教育委員会や学校現場での経験からご指摘をいただきたいと思っています。

(蓮沼 P)

『志教育』の実態を実は深く知っているわけではないので、お答えすることが難しいと思っています。県の教育委員会が示している理念から、教育事務所が市町村教育委員会のもとでいろいろと取組をやっていると思います。共通するものもあれば、その独自性を生かしたものもあると思います。小回りが効くところでは地域に入っていきながら、地域の課題を捉える活動などが県の志教育でされていて、さらに地域の方々が入ってアクティブな動きもあると思います。志教育では特色を生かしたものがあると思っています。

仙台市でも学校の状況は様々なので、それに応じて学校独自のこれまでやっていた活動を生かしながら意味付けを変え



て取り組んでいく、そして『自分づくり教育』という形で取り組んでいるようなものもあります。地域のお祭りや地域活動をうまく位置付けし、総合的な学習の時間でそれを扱っている取組もあると思います。目指すところはキャリア教育で目指すところの生き方と向き合うことです。学力については、得点に注目が集まり様々な問題を指摘する声があります。比較しても地域性がいろいろと違います。宮城県の地域は様々で仙台市より学力のポイントが高い都市も当然あるわけで、それを平均して比べることに意味があるのかなと思うのです。比べるなら何を比べるのか。ネガティブなものにもっていくのではなく、子供たちが志教育とか仙台自分づくり教育で取り組んだ事を互いに共有していくとか、子供たちのモチベーションにつながっていくような交流をしていくなど、そういうことができるといいのかなと思います。

結局、学力の話も 100 点をとっても、その中身が違う場合があります。もともとは点数だけで「できた、できない。」と言っていたのですが、今は『質』の問題です。学びの質的な部分を考えていったときに、幼児教育の話がありましたが、ああいう環境や遊びを通して、ものを捉えることや考えることが大事だと思います。そしてそこに自分なりの疑問を見つけて取り組んでいく、次の課題を見つけていく、そうやって学んでいた結果の 100 点と、塾に行って知識的な部分の記憶としていく、どちらかという点数を取ることに価値が置かれたような形での 100 点とは全然違います。

目指しているのは、質的な部分、深い学びという言い方をしたり、あるいは、本当に世の中で生きていく力だったりそういうものだと思うのです。

志教育と仙台自分づくり教育の違いについては答えていないのですが、目指すところは一緒で、結果として認知学力にも反映されていくようなキャリア教育が共通なのではないかと思います。

（菅原 C）

画面に『みやぎの志教育』について、県のホームページから抜粋したものを示しました。

【みやぎの「志」教育】

みやぎの「志」教育＝小中高の全時期を通じて、人や社会とかかわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく教育

「夢」をはぐくみ「志」に高める

視点1・・・人と「かかわる」

視点2・・・よりよい生き方を「求める」

視点3・・・社会での役割を「果たす」

※「家庭との連携」＋「地域・企業との協働」

先ほど蓮沼様から発表いただいた、仙台市の『自分づくり教育』と重なる部分がございます。その中で、社会人としてのより良い生き方を主体的に求めさせていくということで、本日のテーマとぴったりくる部分があるわけです。後ほど、フロアの方々に『志教育』を実践された経験をおもちの先生方からもお話をいただくとありがたいと思っています。

私から浅野様にお伺いします。今、大学生、高校生のお子さんがおられますが、幼稚園～小学校への壁、小学校～中学校への壁とかというものを、お子さんが夢や希望をもつときに壁のようなものを感じたことはございますか。

会場参加者との意見交換

(浅野P)

子供は3人いますが三者三様で、特に男の子はもうあまり話をしてくれなくなっています。やはり幼稚園、小学校、中学校と、学年と年齢が上がるにつれて、子供たちなりに、私の知らないところで成長を重ねているのかなと感じています。子供たちは自分なりに頑張っていて、親である私に向き合ってくれているのだという気持ちを感じながらも、自分の得意分野はいいのですが、不得意をどうやっていくのかなということが心配です。学業的なことはそれぞれ思うところもあると思いますので励ましながら、どういう壁が見えて越えていくのか、自分なりに選択をしていってほしいと見守っています。答えになっていないようです。



(菅原C)

ありがとうございました。おそらく家庭の雰囲気がよく、お子さんが困ったときに相談できる場所であったり、涙を流したり、笑い合ったりというようなことが、家庭という空間に確保されていて、壁の高さや厚さもほどけてくるのかなと感じました。

(菅原C)

それでは、ここからは会場の皆さんと一緒に進めてまいりたいと思います。今、パネラーの皆さんからの発表や質疑を伺った上で、会場の皆さんから、ご質問・ご意見等がございましたら、積極的にご発言いただければと思います。

(会場：青沼様)

大崎市の青沼と申します。パネラーの皆さん、コーディネーターさん、色々なお話をありがとうございます。感想に近いのですが、最近感じていることがありますので、お話します。「夢や希望をもって、たくましく」素晴らしい言葉だなあと思いながら、このためには何が必要かということ、ちょっと考えています。

最近、市に来た質問の中に「不透明な時代」の中で、これからの子供たちに、「どんな子供になってほしいですか。」というものがありました。すぐには答えにくかったのですが、私も一生懸命考えました。夢や希望をもつ、たくましくなる、そのために何が足りないのかなと考えた時に、「辛抱強さ」とか、「我慢できること」が必要だと思いました。これから50年も60年も生きていくわけですから。それから仕事についてですが、最近、すぐ辞めてしまう若者も多いようで、そういうことから辛抱強さとか、我慢できない子供ということをお願いしたいと思います。

そのためにはと考えているのは、真ん中に家庭、学校、地域とよく言われますが、学校に負担が掛りすぎていると思います。幼稚園の水野さんの体験したこと、私も幼稚園で5年間体験したことがあるので、その時は水野さんと同じことを感じていました。

やはり幼稚園に入る前の家庭教育の部分はどう考えるか、親御さんにどう素地を作ってもらうか、これは幼稚園と保育園とかだけではできない要素なのだと思います。そうしたら、ある人はこう言われたのです。「我慢という言葉には虐待が見える。」というのです。実は、違う話をしているのだと思いました。いやでも、そういう我慢をさせる場合とか、そういう場面がないので、これから生きていく子供には、そうしたことが足りないのではないかと考えています。

全てこちらで作り上げるものではなく、やはり主体的に子供たちの方からの取り組みも大切だと思います。親として子供を育てるという立場からすれば、親御さんがそういうことを考え実践していくことだと思います。「夢や希望をもって、たくましく生きよう」には、そういうことをやっていけばいいのではないかと感じています。

常々自分自身が強く感じているものですから、ついついお話したくなりました。

それから、最近は家庭の教育力だけではなく地域の教育力も少しずつ落ちているのではと感じます。今、コミュニティスクールなどを県で一生懸命進めていますが、なかなか難しいなと思っています。まずは、第一の家庭の部分を見直しなが

ら、親御さんへの教育ということも大事で、生き方での気づきを促していく必要があるかと思っています。



(菅原 C)

ありがとうございました。蓮沼先生、家庭の教育力をどう高めていくかという面で、先生のご経験からのお話がありましたらお願いします。

(蓮沼 P)

P T A活動の意味が、本来社会教育活動ですね。そこで親が関わって学び合っていく。質が高まっていく。親としてというのもあるのですが、実は自己成長をしていく。それが本来のP T A活動だと思いますが、おろそかになっているという側面もないわけではないです。社会の状況は変わっていますが、親にそれをどうやって伝えていくかということはなかなか難しいです。今の厳しい世の中ひとり親家庭であれば、懸命に働くことで何とか生活を維持するといったご家庭が多いかもしれません。しかし、子供に親の目が届きにくいこともある。どうするかです。学校としては何かあれば「〇〇してください。」と正論で求めるのです。それを求める一方で、親に余裕がない時に

は、それだけではやっぱり学校に向き合わないし、子供にも向き合わないこともあります。前の学校では、教頭が窓口となり前に出て対応してもらっていました。夜職をしているお母さんがいました。子供が登校しないので担任が電話をすると、子供が朝起きないとかどうこうと話すのです。学校からいろいろ電話をすると嫌なのですね。電話に出なくなるのです。教頭先生はお母さんにずっと共感的な対応で接していました。いつもお母さんに子供のよさを伝えました。そのうち、お母さんがだんだん変わってきたのです。「先生が子供のことをよく見てくれて安心した。」と言うのです。お母さんは次第に教頭先生の話聞くようになりました。そして仕事を変えました。子供のために生活を変えました。これは一つの例だと思うのですが、そのように周りで助けていく。あるいは共感していくようなところが大切だと思います。それがただ学校の役割なのかというと福祉の領域にもなってきていると思います。

先ほど学校が抱えているものが大きすぎると言ったのですが、そうは言っても子供の姿として様々なことがあるのです。子供に寄り添っていったときに絶対家庭はないものにはできません。そこで学校

と家庭にどういうブリッジをかけていくのかだと思います。常にそれに応じて働きかけていくしかないかなと思っています。今すぐに効果があるのではなく、ボディブローのように少しずつと思っています。あとは全くお手上げ状態になると専門機関に関わってもらっているという家庭の状況もあります。ただ学校で『場』を作っていくことで何とか関わっていくことが大切であると思います。子供のよさを伝えることと、子供を介して家庭といろいろな話ができるようなブリッジをかけていくしかないのだと思います。それによって相手が何かに気づき、意識が変わってくればいいなと思っています。

(菅原C)

ありがとうございました。学校だけではどうしようもない部分もありますけれども、専門の相談機関につなぐなど、手を考えていく必要があると思います。そのほか、会場の皆さんから何かありましたらお願いします。

(会場：桂島様)

違うことでもいいですか。主催者側で申し訳ございません。『志教育』とはどういうものかという質問がありましたので、当時、県教委の義務教育課にいて、志教育の立ち上げに関わった者として、お話しさせていただきます。『志教育』という教育の根底には「世のため、人のために、自分を生かす」という考えがあります。今日のジーバさんの発表内容は、まさしく「志」であると思い、大変嬉しい気持ち



ちになりました。単に医師となって、社会的地位を得たいとか、お金を得たいという目標ではなく、世のため人のために、何かを為すということが「志」だと考えています。

宮城の『志教育』は、「自己実現にとどまらず、社会貢献できる人づくり」をしましょうという教育です。先ほど、スライドで志教育の定義が紹介されました。当時同僚であった先生と私とで、考案・作成したものです。内容は、小さい頃から発達段階に応じて、集団や社会の中で自分の果たす役割とか自分ができることは何かを考えさせ、人と関わりながら成長させましょうというものです。宮城の志教育は、『自己実現にとどまらず、社会貢献できる人づくり』であり、キャリア教育プラス道徳的な要素が含まれている教育です。お話する機会をいただきありがとうございました。



(菅原C)

ありがとうございました。『志教育』のねらいの深い部分について確認していただきました。会場の皆さん、他にございませんか。

(会場：青沼様)

先ほどのお話の続きになりますが、『親の道しるべ』という家庭教育支援の活動があります。この活動は各地域で動き始めており、大崎でもチーム大崎という名前でしたか、親御さんたちを対象にそういう機会をもちながら活動しています。本来は何か問題のある人が来てほしいのですが、そうではないのです。活動に来て話を聞く人は問題のない人がほとんどです。活動は8回にわたって実施しています。『親の道しるべ』を親の学びサロンと称して大崎ではやっていますが、おいでになる人は今のところ5~6人のチームにとどまっています。回数は少ないのですが何回でも、あればと思って根気強くやっています。そういうことを含めながら、家庭への啓発をやっていく必要があるかなということをお話しさせていただきました。

(菅原C)

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。どうぞお願いします。

(会場：大曾根様)

仙台市PTA協議会の大曾根と申します。パネラーの方々の素晴らしいお話をお伺いできました。実は今年、仙台市PTA協議会の主催で、日本PTA東北ブロック研究大会を行いました。その時に全国大会の基調講演として、東北大学脳科学の先生が、子供たち数万人のデータを基に、「自分の親以外に信頼できる大人がいる」と答えた子供たちが多いという話がありました。自己肯定感が高いと思

うのですが、データを示しての研究成果の発表でしたので、私はやはりPTAの存在というのが子供たちの成長に資するところになっているかなと改めて感動した覚えがあります。やはり、我々が作るべき居場所というものは、学校や地域と連携して行っていかなければいけないと改めて思った次第です。

そういったPTAの存在意義というのを確かめた上で、3人のパネラーの皆さんに聞いてみたいことは、今までのご経験の中で、「子供たちの居場所づくりのためになった」何かいい事例があったらお聞かせいただければ幸いです。私も自分の地域で取り入れてみたいこと、子供たちのためになると思えば保護者の方々や地域の方々も「いい活動だね」ということで協力していただける体制が作れるのではないかと期待しているところがあります。よろしくお願いします。



(菅原C)

ありがとうございます。お伺いしたいと思います。子供が夢をもつとか希望をもつというときには、先ほどのお話にもあったように「土」になる部分がしっかりとしていないと、ということで、今そ

の土になる部分としての居場所づくりについて一言お願いします。

(浅野P)

親父の会ですね。PTAのお父さんたちの中にエネルギーのある方がおられたのです。その方がPTAとして何かできないだろうかと相談してきた時に、学校の役に立って、子供たちにそれがアピールできるということで、校庭のグラウンド整備をしてもらいました。この学校は風で校庭に砂が溜まるのです。すごい量が溜まっていてテラスも埋まりそうなどころもあり、そういうところを掘って整備してもらうことをやりました。その時はお父さんたちがずいぶんと出てきました。いっぱいです。

こうして子供たちを親父の会と関わらせる場を作って継続していったのです。その時に小学生だった子供は、今は高校生になって地域のイベントや親父の会にも関わったりして司会進行を自らやったりなど、ボランティアで活動しています。どういう場を作っていくかということは非常に大事で、その場が理屈じゃなく「こういうのを今度やります」や「これをやるから集まりましょう」ではなく、単純にこれは役に立てるとか、そういう場作りしたことで、これまで来なかったお父さんたちが出てきてくれたと思っています。その親父の会が地域活動にも今では、非常に役立ち勉強になるものがあります。いろいろなお手伝いができたり、学校で場作りしたりしてよかったなと思いました。

(菅原C)

水野先生はいかがですか。

(水野P)

ありがとうございます。『居場所づくり』という言葉でイメージするものですが、まずは0歳から始まった時の『子供の居場所づくり』となると、やはり親で、特に母親の方になるかなというところですね。スキンシップとか、いい言葉を投げかけるとかそういったところで基地を作ってあげることです。そこから子供たちは少しずつ大きくなって離れますが、また戻ってくる事ができるというその『基地作り・居場所作り』がまず大事になってくると思います。こういったことは、生涯学習としてお母さん学級なども関わってくると思います。幼稚園で十分育ってきたところから次のステップに行くためにも、小学校とも深く関わっているところですが、やはり自信がもてる、自己肯定感をもつことはすごく大事になってくると思います。

私たちの園では、『遊びの拠点』と言いまして、先ほどの色水遊びだと色水遊びの拠点とか、泡遊びの拠点、忍者ごっこ拠点などがあるのですが、そういったところが園にいる間の居場所となっています。国の方でも持続可能社会の担い手の育成というのを打ち出しています。それを紐解いていくと、自己肯定感を基盤としてとなってくるのです。その自己肯定感を作るためには達成とつながり、先ほどお話があった子供と親が一緒のような活動が大事になると思います。

それが小学校になると、やはり学級づ

くりの部分、『学級が居場所』になるということがすごく大事になって思っています。先ほどお話いただいた、辛抱強さ、粘り強さも、実は今すごく求められていると思います。国の方でも、「自主性」や「豊かな」という言葉を使いつつ、1つだけ「粘り強さ」が入ってくるのです。そこだけ根性っぽいところが入ってくる。言葉は粘り強さですが、実はすごく大事にしているなあと思いました。そういったところも含めて、それぞれの段階で居場所ができるようになるのは大事だと考えています。

(菅原C)

ありがとうございました。浅野様、何か付け足しがありましたらどうぞ。

(浅野P)

今、水野先生がおっしゃっていたとおり、昔の根性論がもうちょっと入ってもいいのではないかと思います。今の子供たちは、常に至れり尽くせりではないかなと思います。個人的な感想ですが、『居場所づくり』は、私の周りですと東松島市の教育委員会では、『出番・役割・承認』ということで、どの子供にも出番と役割



を与え、そのことを承認してあげるとい
う取組を行っています。地域の自治会の
活動に、小学生・中学生が入ります。最
近ですと、防災訓練に中学生が入りまし
た。高齢者で足元の不自由な方ですとか
に思いやりをもって、一緒に手を携えて
避難所に歩いていくということもありま
した。思いやりをもった姿が、地域の方
や高齢者の皆さんに「優しくいい子だね。」
という感じで伝わりました。本当に子供
たちはその程度といたらおかしい話なの
ですが。今、核家族化が進み、おじい
ちゃん、おばあちゃんと住んでいる子供
が少なくなってきました。でも、やはり
おじいちゃん、おばあちゃんから教わる
ことも非常に大きなものがあると思いま
す。そのような部分での『居場所づくり』
も大切だと思っています。

(菅原 C)

ありがとうございました。皆さんのご
意見を上手に引き出せぬまま、終了時刻
になってしまいました。

おわりに

(菅原 C)

昔から「教育の不易と流行」という言
葉があるように、私たちがやっていく中
身としては、やはり目の前の子供をしっ
かりと見ることだと思います。その上で
今、子供にとって何が必要なのかという
ことを、しっかり考えていくことだと思
います。それから、遊びや体験活動・交
流活動をしっかり取り入れていくことだ
です。そして、地域、学校、家庭が連携し

てというあたりが、今の時代でも十分に
力を発揮する場面があるということが確
認できました。

また、時代の変化に応じての部分では、
『自分づくり教育』とか『志教育』とか
を先頭にして、いろいろな学校現場、幼
稚園の現場、家庭でも取り組まれている
ことが分かり、心強く思いました。

しかし一方には、子供に見られる課題
もたくさんあるわけですので、私たちが
間違いなくこれを地域に帰って、今日お
話しいただいたことを生かしながら、ぜ
ひ多くの方々に広めていただければと思
います。よろしく願いいたします。

最後に、様々な実践を基にしてお話い
ただいた3人のパネラーの皆さんに、大
きな拍手をいただいて、この会を閉じた
いと思います。ご協力ありがとうございました。



(進行)

パネラーの皆様、コーディネーター様、
大変ありがとうございました。感謝の気
持ちは込めてもう一度盛大な拍手をお願
いいたします。

* パネルディスカッションのまとめは、内容や
言い回しを事務局が編集しています。ご了承ください。